

ぼうさい

DISASTER MANAGEMENT NEWS

平成20年9月号
SEPTEMBER 2008 No.47



特集

地震発生! あなたの 住まいは大丈夫?

TOPICS

2008「防災週間」
レポート in さいたま市

Active Woman

船崎幸子
[ラジオ・パーソナリティ]

内閣府(防災担当)
Cabinet Office, Government of Japan

8月22日から25日に行われた
「防災フェア2008 in さいたま」

日本
の
火
山

vol.03

浅間山

[群馬県・長野県]

多様な植物が自生する自然の宝庫



長野県御代田町から望む、浅間山と紅葉（写真提供：アプロ）

群馬県と長野県にまたがる標高2,568mの浅間山。10万年以上前から噴火を繰り返し、日本の火山噴火の災害としては最大といわれる1783（天明3）年の大噴火では、軽井沢町周辺から嬬恋村などの山麓一帯に未曾有の被害をもたらした。死者総計1000人を超えて、流された家屋は1000戸以上にも上ったという。その後も山頂火口からの噴火が続き、明治年間以来たびたび爆発的噴火を繰り返してきた。1950年代までは毎年のように噴火があり、爆発による噴石によつて犠牲者も多く出した。現在も、気象庁地震火山部の観測データによれば、山頂火口で小規模な噴火が発生したり、火山性地震が多い日で100回以上起きたなど、依然として活動は続く。国土交通省、県、市町村では、噴火の規模と危険範囲の目安として「浅間山火山防災マップ」を作り、防災対策に力を入れている。

多様な植物が自生し、秋には周辺の高原が紅葉して登山客を楽しませる浅間山。自然の脅威を見せつける一方、勇壮な美を実感させる山だ。

浅間山

複雑な形成史を持つ火山。爆発型（ブルカノ式）噴火が特徴で、噴火の際は火碎流（熱雲）が発生しやすい。現在、活動的で特に重点的に観測研究を行うべき火山の一つ。今年8月8日以来、噴火警戒レベルが1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げられている（9月16日現在）。

文：さくらい伸

ぼうさい

CONTENTS

9月号 [No.47]

2 日本の火山 vol.03
浅間山(群馬県・長野県)

4 特集

あなたの 住まいは 大丈夫?

あした起きてもおかしくない大地震

東京大学地震研究所教授 島崎邦彦

プロジェクト「TOUKAI-0」 静岡県の挑戦

家具転倒防止のビフォーアフター

名古屋大学大学院教授 福和伸夫

大震災への備えを五感で学ぶ

14 Active Woman file 3
FMピッカラ・パーソナリティ 船崎幸子さん

16 Disaster Report
7月28日からの大雨による被害状況等について
平成20年8月末豪雨による被害状況等について

20 Topics
2008「防災週間」レポート
in さいたま市

REPORT1 さいたま市総合防災訓練
避難場所夜間運営訓練

REPORT2 防災フェア 2008 in さいたま

REPORT3 全国防災まちづくりフォーラム

26 Disaster Management NEWS——防災の動き
平成 20 年防災功労者を表彰
平成 20 年度総合防災訓練
災害時要援護者に関する全国キャラバンを開催します

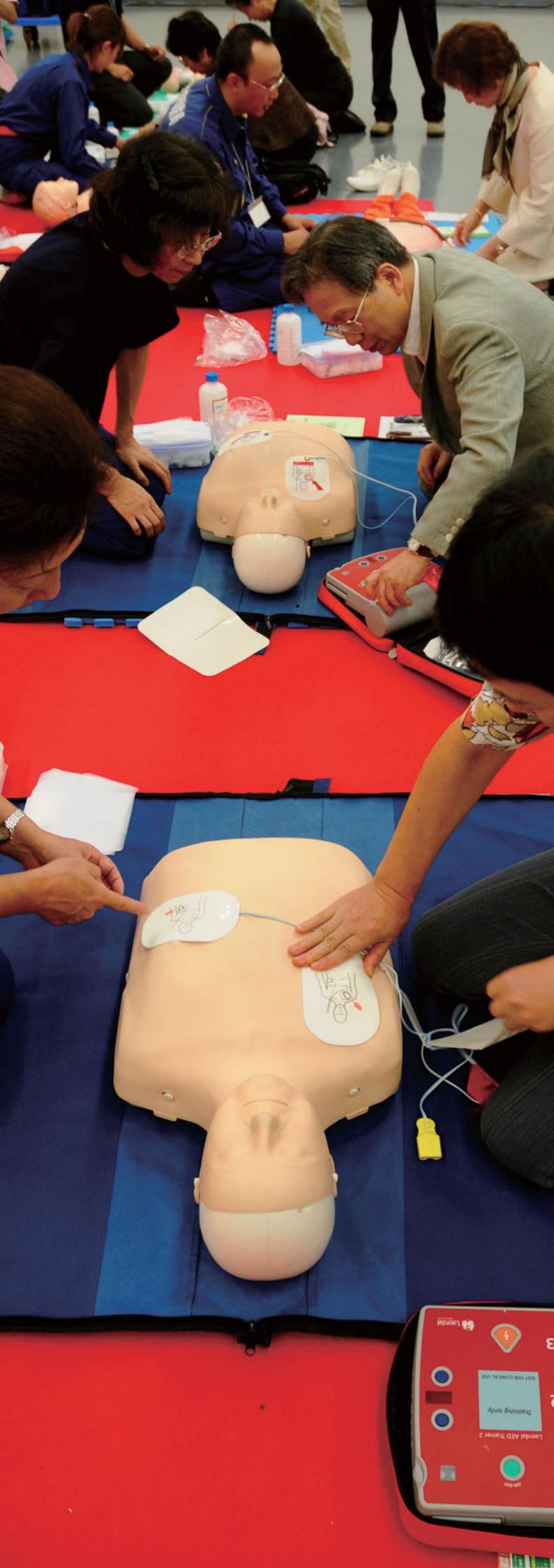
30 過去の災害に学ぶ ②
1959年9月26日 伊勢湾台風(その1)
岐阜大学工学研究科環境エネルギー・システム専攻エネルギー・システム講座教授
安田孝志

32 シリーズ 一日前プロジェクト(第4回)
もし、1日前に戻れたら…

33 防災 Q&A
「地震保険について、詳しく教えてください」
(社)日本損害保険協会 生活サービス部部長
田和淳一

34 記者の目
読売新聞社編集局科学部 米山肅彦

35 防災技術 Front Line
E- ディフェンス
スケジュール





耐震補強、家具転倒防止……震災の備えは住居から!

住まいは大丈夫？

いつどこで起きるか分からない地震に備えるには、今、できることをすることが大切。

中でも、自分の、そして家族の命を守るには、住まいの安全確保が最優先。

建物倒壊や家具の転倒・落下を防ぐために、何をするべきかを見てみよう。

死因のほとんどは 建物倒壊や家具の転倒

平成7年1月17日、5時46分に発生した阪神・淡路大震災は、マグニチュード7・3の地震により、最大震度7を記録。死者は6434人に上り、犠牲者のほとんどが家屋の倒壊や家具などの転倒による即死状態とされている。建物の被害を見ると、ほとんどの建築基準法が改正される昭和56年以前のもの。多くの犠牲者が自宅で亡くなっている。

1998年から2007年の間、世界で起きたマグニチュード6・0以上の地震の回数は961回、そのうち20・7%の199回は日本で発生している。また、平成19年の有感地震は2098回と、日本が地震の多い国であることは疑う余地のない事実。

「どこが安全？」とよく聞かれますが、心配するより、まずできることをすることです」

と、東京大学地震研究所の島崎邦彦教授。いつ地震が起きても命を守れるよう、安全な住まいについて考えてみよう。

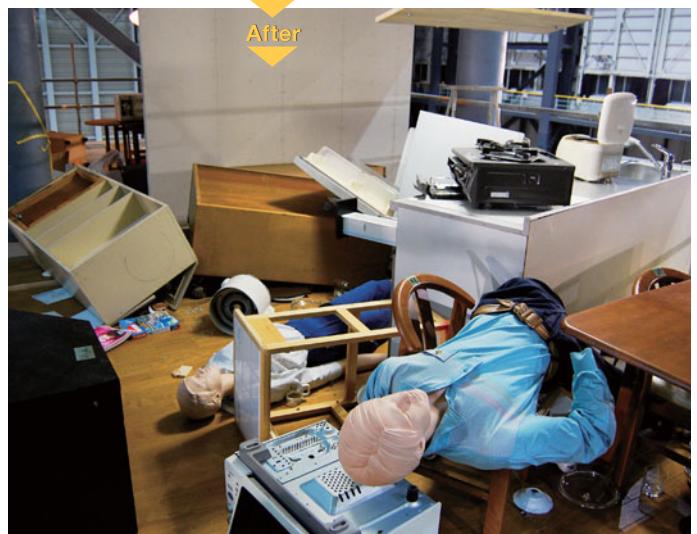
地震発生! あなたの住まいは大丈夫?



こちらは、洋服ダンスのある和室の寝室での実験。高さのあるタンスは転倒し、低いタンスも引き出しが飛び出してしまっている。間取りの関係で、どうしてもタンスのある和室で寝るのなら家具は必ず固定を



などはすべて落下 (写真提供:防災科学技術研究所)



地震発生! あなたの



実際の木造住宅を実験施設内に移築し、耐震補強効果実験を実施。震度7相当の揺れを加えた結果、耐震補強をした右の家は倒壊しなかった (写真提供:防災科学技術研究所)

なぜ、日本はこんなに地震が多い？

あした起きててもおかしくない大地震

例えば、今年9月1日から7日までの1週間で、震度1以上を観測した地震の数は、なんと32回。

毎日、どこかで地震が発生している日本。その理由を、東京大学地震研究所の島崎邦彦教授に聞いた。

日本の中で「大丈夫」と断言できる場所はない

日本は、世界でも稀に見る地震の多い国と言つてよいでしょう。地震とは、そもそも地下の弱いところが一気にずれる現象で、プレート（岩盤）とプレートの境目で多く発生します。日本列島が位置する環太平洋は、

ちょうどこのプレートの境目に当たり、さまざまなプレートが重なる掃き溜めのようなところなので、あちこちにはころびが生じやすいのです。

地震には「海溝型地震」と「直下型地震」の2種類があります。海

溝型地震とは、海溝に沈み込む海のプレートが陸のプレートを引きずり込もうとする時、陸のプレートが元に戻ろうとする力によって発生する

地震のこと。大正12（1923）年の関東大地震や、現在心配されてい

る東海地震、東南海地震も、このタイプだと考えられます。この地域では、マグニチュード8程度の地震が100年から150年の間隔で起きています。前回の安政東海地震から150年過ぎていることから、静岡県西部、駿河湾一帯の東海地震はいつ起きてもおかしくないと言つてよいでしょう。

一方、内陸部でプレートの内部がひずみ、限界に達すると壊れて断層ができます。これが私たちの足元で起きるものをして下型地震と言います。平成7年の阪神・淡路大震災はこのタイプの地震が起こしました。

断層の中でも今後もずれて、大地震を起こす断層を活断層と言います。どの場所でいつ地震が起きるのか、予測するのは困難ですが、活断層があるかどうかが一つの目安となるのです。

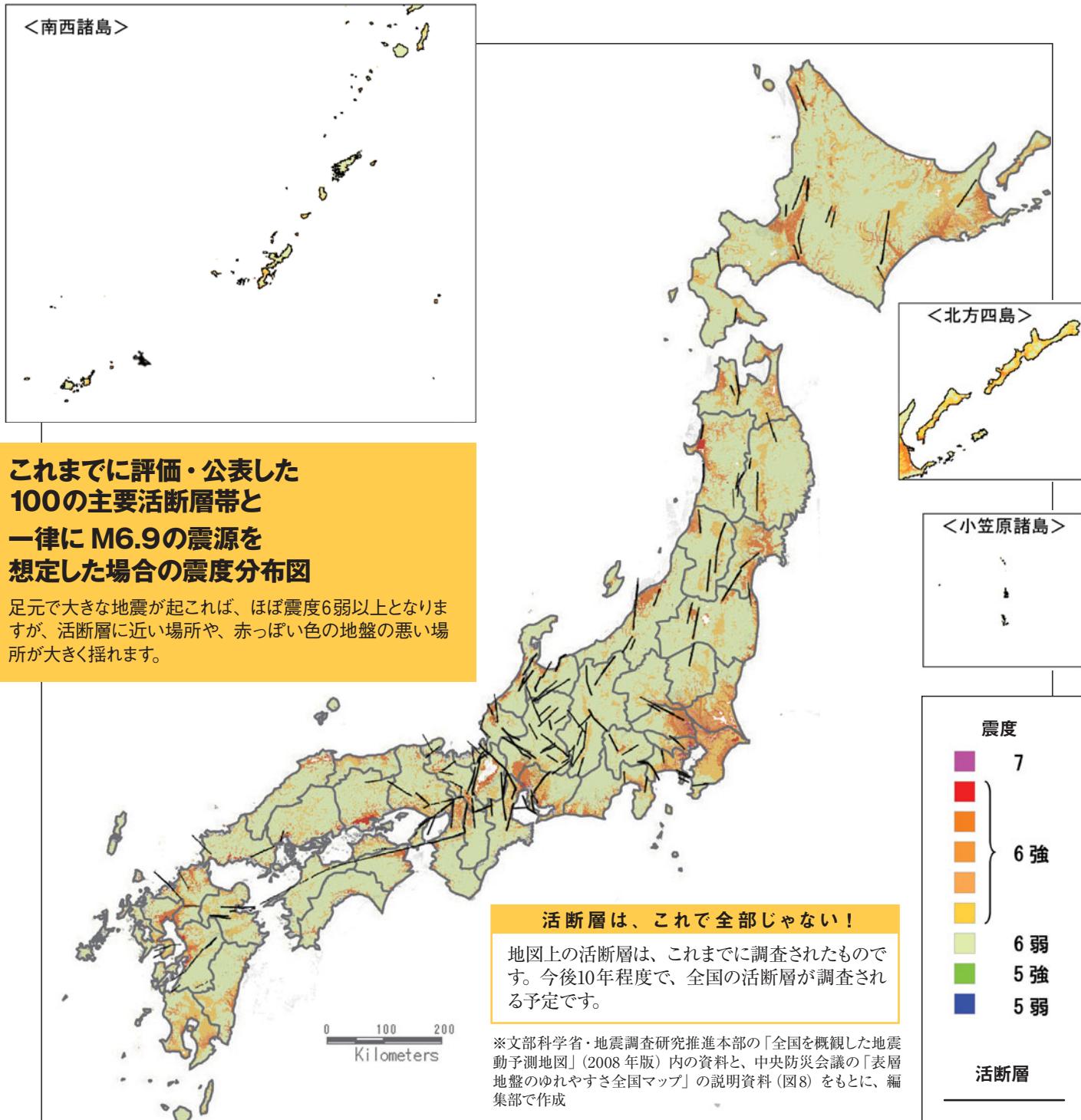
最近日本では、岩手・宮城内陸地震や新潟県中越沖地震など、地震が



阪神・淡路大震災の原因となった活断層、野島断層の保存館（写真提供：島崎邦彦）



東京都立川市・青梅市などを通る立川断層のトレンチ調査。砂利の層のずれが分かる（写真提供：島崎邦彦）



東京大学地震研究所
地球流動破壊部門 教授
島崎邦彦

しまざき・くにひこ●1946年、東京生まれ。68年東京大学理学部地球物理学卒業、70年東京大学理学系大学院地球物理学専攻修士課程修了後、東京大学地震研究所助手を経て、74年に理学博士に。その後、カリフォルニア工科大学研究員、東京大学地震研究所助教授を務めたのち、89年より教授となる。地震調査や予知、防災関連などの委員会を多数務めている。主な著書は『あした起きてもおかしくない大地震』『地震と断層』『活断層とは何か』など

続いていますが、それでも比較的平和な時代だと言えるでしょう。実はこの先、大きな地震が、「かため打ち」で起きる可能性があるのです。たまたま今は間が空いている時期に過ぎないのでですが、その間に一生を過ごせたら、その人は幸運だと言えます。まさに、大地震は今日起きてもおかしくないのです。

「いつ起きるのか、どの場所で起るのか」と心配するよりも、お金をかけてでも家を丈夫にするしかないのです。

丈夫な
家で
安心!

建物倒壊による死者をゼロに！

プロジェクト「TOUKAI-O」

（東海）
倒壊ゼロ

昭和51年に発表された、「東海地震説」。避けられないマグニチュード8程度の地震に備えるために、何ができるのか？

大きな被害が予想される静岡県は地震に対する先進的な取り組みで知られるが、中でも、全国から注目を集めているのが「TOUKAI-O」である。

3段階のサポートで 木造住宅を耐震化

阪神・淡路大震災以来、住宅の耐

震化の重要性が訴えられている。しかし、「工事費の高さ」「工法のバリエーション不足」「東海地震の切迫性の認識不足」などが壁となり、一般住宅の耐震化はなかなか進まなかつた。そこで平成13年、静岡県が立ち上げたのが、旧耐震基準の木造住宅の耐震化を促進し、震災時における人の命の安全を確保する、プロジェクト「TOUKAI-O」。これは、耐震補強工事に対する徹底したサポートを実現した取り組みだ。

静岡県では、耐震化までの過程を3つに分けた。1つ目は、電話1本で申し込む「専門家の無料耐震診断」。高齢者でも安心できるよう、市や町から専門家を派遣し、数時間か

けて家を診断。一方で、専門家の育成にも力を入れており、建築士や大工向けに静岡県耐震診断補強相談士の講習会も行っている。

2つ目は、「補強計画の作成」。補強する箇所や方法、工事にかかる費用、そして住む人の生活スタイルを相談しながら、補強計画を頼むことが可能。そのうえ、費用の2／3（1戸あたり9万6000円まで）の補助が受けられる。

最後に、定額30万円の県の補助が出る「耐震補強工事」。補助金を費用に対する割合ではなく定額にしたことで、申請がスムーズに進んでいれる。また、20万円の高齢者等割増補助や、単独で5～30万円の上乗せ補助をしている市や町もあり、多いところでは県と市町合わせて最高80万円の補助が出る。

CASE1 渡邊邸 昭和43年築

間取り（1階）：和室3、洋室1、キッチン1、倉庫1
補強工事の内容：筋かいを26カ所、柱を8本追加、構造用合板による壁の補強のほか、洋室とキッチンをLDKにリフォームするのに伴う壁の追加など

費用：約200万円（リフォーム費は除く）



柱と土台や、柱、土台、筋かいを固定する接合金物



厚さ7.5mm以上の強度の強い板材、構造用合板を張っているところ



中央が渡邊さん、右が静岡県耐震補強相談士の「すまい工房」の三ツ井さん。後ろの倉庫の外壁には、耐震補強工事の必要性のPRにも役立つ「耐震補強工事実施中」の幕がある



倉庫内の補強工事。
筋かいが1本しかなかったため、新たに1本を追加（手前の新しい木材）



押入れは、内部をすべて外したのちに筋かいを入れ、構造用合板を張る。中央と左右の壁を同時に補強できる利点もある

トなどを徹底して活用。

「実際の無料耐震診断の利用率増加に最も効果があったのは、各家庭へのダイレクトメールや、市や町の職員や静岡県耐震補強相談士による戸別訪問です」と、県の担当者。各市や町の職員と、年に3回ほど会議を開いて意見交換もし、県全体が一丸となつて耐震化の普及に努めてきた。その結果、今年8月末で、耐震診断を受けたのは5万3780戸、耐震補強工事は8642戸に上つている。

「静岡でTOUKAI-I-Oを知らない人なんていませんよ!」と話すのは、現在、耐震補強工事を行つてゐる渡邊さんだ。

「でも、診断結果を知るのが怖かつたり、なかなか工事に踏み切れない人もいるかも……。私の場合は、リフォームを相談したとき、建築士の

三ツ井孝さんから耐震補強工事を勧められたんです」

三ツ井さんは渡邊さんの希望に応え、間取りや水周りなどをリリフォームしながら耐震補強工事を進めてい

の存在を伝えるかということだ。そこで、テレビやラジオCM、県民だよりや市や町の広報誌、パンフレットなど徹底して活用。

「実際の無料耐震診断の利用率増加に最も効果があったのは、各家庭へのダイレクトメールや、市や町の職員や静岡県耐震補強相談士による戸別訪問です」と、県の担当者。各市や町の職員と、年に3回ほど会議を開いて意見交換もし、県全体が一丸となつて耐震化の普及に努めてきた。その結果、今年8月末で、耐震診断を受けたのは5万3780戸、耐震補強工事は8642戸に上つている。

「静岡でTOUKAI-I-Oを知らない人なんていませんよ!」と話すのは、現在、耐震補強工事を行つてゐる渡邊さんだ。

三ツ井孝さんは渡邊さんの希望に応え、間取りや水周りなどをリリフォームしながら耐震補強工事を進めてい

「耐震補強だけでなく、住む人の生活が豊かになるような設計も併せて説得できるといいんです」

今年6月中旬に耐震補強工事を終えた望月さんは、平成14年に診断を受け、しばらく様子を見ていたが、「最近、地震が多いので安心して生

活できるなら、と思い切つて決断しました」

設計を担当した建築士の白坂進さんは、押入れが多いという住居の特徴を生かし、「見た目が変わらず、コストも抑えられる押入れを中心とした補強にし

ました。このように、生活の支障にならない方法を提案していくことが大切です」

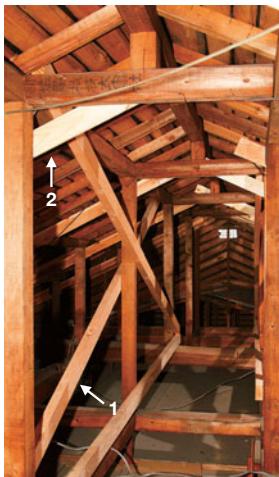
人の命を守るには、「倒れない建物」が必須。静岡県では、平成27年度末までに住宅の耐震化率90%を目指している。



本瓦(土をのせない場合)より1m²あたり約20kgも軽くなる軽量瓦



補強工事後の押入れ。←の内側に構造用合板がある



屋根裏の補強。棟方向にくも筋かい(1)を追加し、軒棟方向に合掌筋かい(2)も入れた



補強の内容によっては、家の外観を変えずに工事が可能

CASE2 望月邸 昭和41年築

間取り: 和室3、洋室2、DK1、車庫1
補強工事の内容: 8カ所の押入れを中心に筋かいを14カ所に2本追加、5カ所に1本追加したほか、屋根裏の補強と、屋根の軽量瓦化など
費用: 約1000万円(軽量瓦代は除く)

耐震補強工事の平均費用(平成18年度)は167万円!



耐震補強工事が終了すると、このシールを張る

壁(筋かい、構造用合板とともに)
室内…1カ所につき8~15万円

押入れ内…1カ所につき6~9万円

外部…1カ所につき10~20万円

基礎

補修(ひび割れなど)…1カ所につき1~2万円

補強(鉄筋コンクリートの打ち増し)…1mにつき2.5~3万円

屋根

軽量化…1m²につき1.2~2万円

※すべて参考価格で、実際は家の状態などにより異なります。

Before

ひとり暮らしのAさんの家具をCheck!



福和's
Check1
玄関

本棚が倒れると
避難経路が塞がれます。
玄関にある花瓶等は
割れると危険です。

福和's
Check2
寝室

就寝中に地震がおこると
逃げられません。
棚の上の荷物も危険！



棚が倒れると
ガラスが飛びちって
負傷の原因と
なります。

福和's
Check3
寝室



福和's
Check4
居間

地震で揺れると
棚の中身が全て
飛び出します。



地震で負傷しないためには、事前

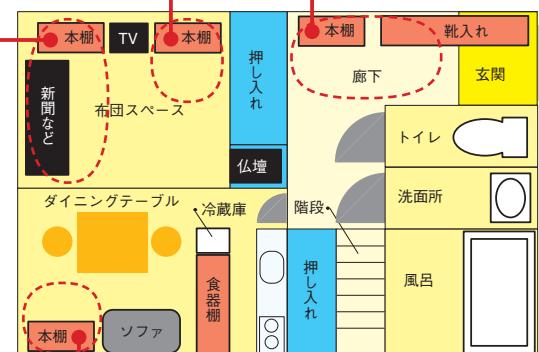
- ①家具の倒れる向きを考えて
 - ②家具部屋をつくる
 - ③作りつけの家具を使う
 - ④寝室には家具を置かない
 - ⑤家具を置く場合には固定する。
- また、家具固定の際には、壁や天井、床などに対し、複数の固定器具を併用するのが理想的です。家具同士の連結も効果があります。

安全な
室内で
安心！

家具転倒防止のビフォーアフター

地震による負傷原因の3割～5割は、家具類の転倒や落下によるものです。ここでは、家具の固定がされていないお宅に伺い、地震工学が専門の福和伸夫先生に、どのようにすればよいかチェックしていただきました。

家具の固定や配置の見直しで「安全空間」を！



Aさん家の
1階の間取り図

築25年の一戸建てにひとりで住むAさん。家族4人で暮らしてきた空間は、生活に便利な家電や家具でいっぱい。

地震による負傷の多くは、家具類の転倒・落下が原因です。転倒・落した家具につまずいたり、家具が倒れたときに割れた食器やガラスなどが、多くの負傷原因となり、大変危険です。

地震の際、家具は必ず倒れるものとして考え、災害に備えることが必要です。まず、5つの事柄を実践しましょう。

- ①家具の倒れる向きを考えて
- ②家具部屋をつくる
- ③作りつけの家具を使う
- ④寝室には家具を置かない
- ⑤家具を置く場合には固定する。

名古屋大学大学院教授
福和伸夫

ふくわ・のぶお●1981年に名古屋大学大学院修了後、清水建設株式会社に入社。91年から名古屋大学に異動。専門分野は建築耐震工学、地震工学、地域防災。

After

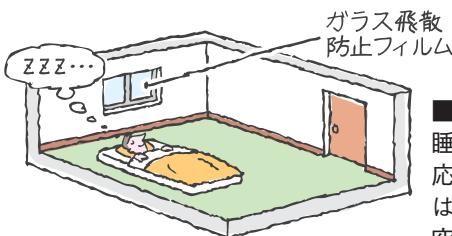
安全空間を確保するにはどうしたらいいの?

Point 2 冷蔵庫やピアノが凶器に
「重い家電や家具も動く!」



■冷蔵庫の固定
重量物も、地震では簡単に動くため、必ず固定。キャスターにはストップーを付ける。

Point 3 家庭に安全空間を
「寝室に家具を置かない!」



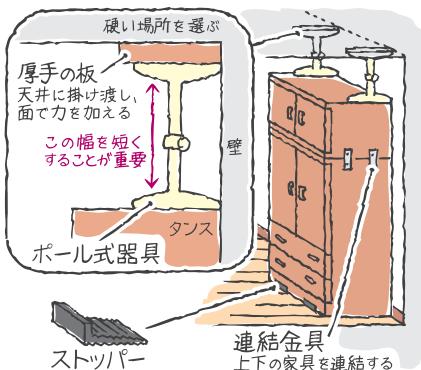
■寝室は安全空間に
睡眠時は地震への対応が鈍るため、寝室には家具を置かず「安全空間」にする。

Point 4 必ず通れる避難経路を確保する
「廊下に避難の妨げとなる物を置かない!」

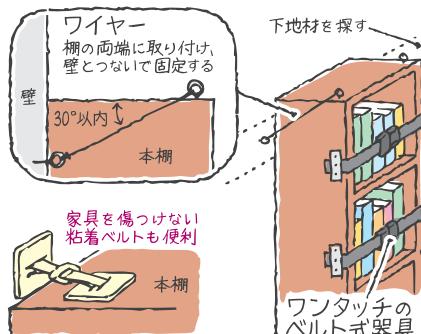


■避難経路の確保
被災時でも廊下や玄関が通れるように工夫し、非常持ち出し袋を準備しておく。

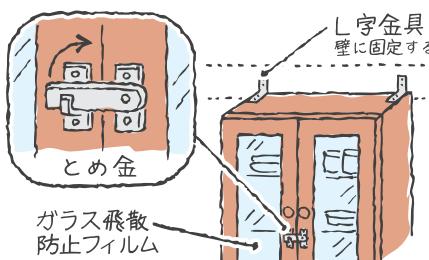
Point 1 家具は壁に固定
「家具は必ず倒れる!」



■タンスの固定
ポール式器具は家具の奥につける。また、左右の揺れで外れやすいので注意。上部だけでなく下部もストップー等で固定。上下に分かれた家具は連結する。ポール式器具は天井や家具の硬い所に付ける。



■本棚の固定
揺れても中の本が飛び出さないよう、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトのようなものを取り付ける。



■食器棚の固定
壁の中の硬い所、下地材のあるところを探し、金具、L字金具などで固定する。さらに観音扉が開かないようストップーを付ける。

震災時、どっちが安全!? 1階 or 2階

耐震性のある家にいるなら1階。
耐震性のない家なら2階にいるのが安心です。ただし、2階の方が、1階よりよく揺れるので、家具固定の必要があります。
地震だけではなく、災害時には2階だと逃げにくいので注意が必要です。では、屋内と屋外では、どちらが安全なのでしょうか。震度7で家が倒壊して生き残った方の多くは屋外に逃げて助かっていますが、搖れがあまり強くない場合や、建物の耐震性が高く、家具固定がされているのであれば、室内にいた方が落物の危険がなく安心です。

の備えが必要です。もし、緊急地震速報が受信できる環境があったとしても、それに対する備えがなければ単なる死亡宣告になってしまいます。まずはできる部分からはじめ、家庭内に「安全空間」をつくることで、被災時や被災後に、安心して暮らせるのです。

大震災を
追体験

人と防災未来センター「防災未来館」へ

大震災への備えを五感で学ぶ

世界的な防災研究の拠点として注目を集めている「人と防災未来センター」「防災未来館」では、阪神・淡路大震災をメインテーマに震災の被害を詳細に伝えるなど、防災についての知識と知恵を学ぶことができる。



震災により大きく傾いた建物や、二次被害である火災で燃え尽くされた街並みをリアルに再現したジオラマ

戦後最大の地震被害をもたらした阪神・淡路大震災の経験と教訓を、多様な展示によって伝える「人と防災未来センター・防災未来館」。単に大震災の実態を紹介するだけではなく、人々の災害への危機感の甘さに警鐘を鳴らすべく、国内外で起こっている自然災害の実態と防災についての情報を発信する施設として、国際的にも広く知られている。

観覧コースは、映像とジオラマによる「震災追体験フロア」、膨大な資料を展示する「震災の記憶フロア」、そしてワークショップを開催する「防災・減災体験フロア」の3フロア。「震災追体験フロア」の「1・17シアター」では、大音響とともにスクリーンに映し出される地震発生時のまちの様子（再現映像）の迫力に、思わず手で耳をふさいでしまう人も多いとか。「震災の記憶フロア」には、破壊され



400インチ相当の大型ドームスクリーン映像
で津波を体感

東海地震を疑似体験！

静岡県 地震防災センター

充実した体験や展示を通して、防災について学べる施設。3方向に動く地震体験、直径9mのスクリーン映像と水槽によるTSUNAMIドームシアターでは、自然災害を体感。耐震コーナーでは、家具の転倒防止、備蓄品・非常持ち出し品などを展示している。



揺れによって家具がどれだけ転倒するか
を学べる、「地震シミュレーション」



2階の防災・減災ワークショップのコーナーでは、楽しく学べる防災・減災の情報を発信。非常持ち出し品も展示している



すさまじい揺れによって破壊していくまちの様子をリアルに再現した約7分間の映像・音響によって、震災の恐ろしさを体感できる「1.17シアター」



ワークショップコーナーでは、自由に「防災すごろく」などゲーム感覚で防災を勉強することができる



地震直後から復興していくまちの様子を、模型やメッセージによって伝える「復興への道」



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

住所: 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
電話: 078-262-5050
開館時間: 9時30分~17時30分(入館は16時30分まで)、7~9月/~18時(入館は17時まで)、金・土曜/~19時(入館は18時まで)
休館日: 月曜(祝日の場合は翌平日)、12月31日、1月1日
入館料(両館/単館): 大人800円/500円、高校・大学生640円/400円、小・中学生400円/250円
<http://www.dri.ne.jp/>

た道具や地震火災によって歪んだ硬貨、被災した家族への手紙など、被災者から寄せられたさまざまな資料を展示。自ら震災を体験した人たちのビデオや語り部による震災を語り継ぐコーナーも設け、来館者はその実態を詳しく知ることができる。

「防災・減災体験フロア」では、実験やゲームによって知識や方法を学ぶワークショップをはじめ、防災・減災に関する情報を紹介。各フロアの展示は誰にでも分かりやすいよう配慮されており、多くの人の防災への意識を変え、災害に強いまちづくりに大きく役立っている。

防災について学べる施設は 全国各地にある!

災害時の拠点となる県や市の防災センターや防災館には、地震・水害・火災などの災害を体験したり、展示や講座などで防災について学べる施設があることも。まずは、近くの自治体に問い合わせてみよう。

住所	電話
... 静岡市葵区駒形通5-9-1	054-251-7100
開館時間	休館日
9時~16時	月曜、12月28日~1月4日
無料	

耐震コーナーではタンスやテレビ、冷蔵庫などの固定方法を学べる



実際の地震と同じように前後・左右・上下の揺れを体感できる起震装置

ラジオを通して伝えたことは 「あなたは一人じゃない」

FM ピッカラ・パーソナリティ

船崎幸子さん



「ただいま大きな揺れを感じました。

火の元の確認をしてください。あなたは大丈夫ですか？」

平成19年7月16日、新潟県中越沖地震発生からわずか1分45秒後、

柏崎市のコミュニティ放送局「FMピッカラ」は、マイクを通して被災者に呼びかけました。その後も、ガソリンスタンドやコインランドリー、入浴施設など、

生活に必要な情報を休みなく送り続けること、41日。

情報を発信する者として震災下で何ができるかを、船崎幸子さんに聞きました。

ふなざき・さちこ●新潟県上越市出身。
平成7年秋に新潟放送退社後、結婚を機に東京へ。その後、新潟に戻り、13年2月から株式会社柏崎コミュニティに勤務。現在、水・木・金曜11～14時の生放送「K's Town」を担当し、ゲストとのトークも交えて柏崎の魅力を発信中。今年の春からは、他局からも受信できる「柏崎発！ 社長の履歴書」も手がけている。震災下、2児を抱えながら泊まり込みで放送をした。

「地

震発生時、私はスタジオの外

にいましたが、逃げることより『伝えること』を真っ先に考えました。すぐに外に出て、『信号が消えている』『道路が隆起している』など、被害状況を記したメモをスタジオ内のスタッフに渡していくんです』

市民にも情報の提供を呼びかけたところ、「倒壊したお寺に人がいる」「おじいちゃんがいない!」など、次々と身近な情報が寄せられました。

「よく『情報の信憑性は?』と聞かれましたが、地震発生から1時間ほどで寄せられたものですからね。と

にかく、伝えたかったんです」

その後、FMピッカラは、被害状況の中継、市役所の災害対策本部、事務所での電話・FAX・メール対応と、それぞれにスタッフを配置。

地域に根付いたコミュニティ放送の利点を生かして、避難所やトイレ、入浴施設などのほか、ガソリンスタンドやコンビニ、コインランドリーの

営業状況など、生活に密着した情報を24時間体制で伝えていきました。

「でも、日を追つて変わる情報とともに、人の気持ちも変化していくんですね。18日に電気が復旧し、人々の心

に余裕が生まれると、私たちに『ありがとうございます』と言つてくれるようになります。その一方で、テレビでほかの避難所を見て、自分たちとの差を感じたりもする。苦情、行政への不満、倒壊しそうな建物への不安など、夜中に多くの電話がかかってきて、辛いときもありました。でも、私たちが心掛けていたのは『あなたは一人じゃない』と、自分たちの存在を伝えること。人とのつながりが途絶えると恐怖を感じてしまいます。そんなとき、情報こそライフラインとなる。だから、やめるわけにはいかなかつたんです』

ここで8月6日に復興コンサートをすることになり、KOKIAさんにも来てもらつたんです。3000人が集まつたこの日を機に、人々の気持ちは変わりました。商工会議所ではネットショッピングが立ち上がり、子どもたちは避難所で自分にできることを探し始めた。復興の起爆剤となつたこの曲はCD化され、私たちが販売しています』

いつまでも震災をひきずらず、市民の元気な姿も届けた船崎さん。

「それが、みんなの癒しと活力になりましたから」



唯一、流していた曲が復興の起爆剤になりました



KOKIA 「私にできること」

詳細は FM ピッカラのホームページ参照。
<http://www.kisnet.or.jp/pikkara/new.htm>



復興コンサートで
力強く歌う KOKIA さん
(写真提供:柏崎市役所)

船崎さんたちは、情報だけを伝えていたわけではありません。災害時ということでCMや音楽を制限していた中、唯一、昼間に流していた曲がシンガーソングライターKOKIAさんの「私にできること」。

「この曲は、KOKIAさんが被災した市内在住のファンからメールを受け取り、わずか2~3時間で作ったのですが、柏崎全体へのメッセージとして受け止められた。震災の中に作られた、本当の復興ソングなんですね。市民にもそれが伝わったんです。市民にもそれが伝わったんですね。支援はいつか撤退するけれど、前に進まなければならない。そ

こで8月6日に復興コンサートをすることになり、KOKIAさんにも来てもらつたんです。3000人が集まつたこの日を機に、人々の気持ちは変わりました。商工会議所ではネットショッピングが立ち上がり、子どもたちは避難所で自分にできることを探し始めた。復興の起爆剤となつたこの曲はCD化され、私たちが販売しています』

いつまでも震災をひきずらず、市民の元気な姿も届けた船崎さん。

「それが、みんなの癒しと活力にな

いましたから」

7月28日からの大雨による被害状況等について

被害状況等について

国内災害レポート

7月27日から29日にかけて、中国、近畿、北陸地方を中心、上空の寒気と湿った気流の影響で大気が不安定となり局地的な大雨に。河川の洪水や急な増水、落雷や突風での被害が各地で発生しました。

大雨の状況

北陸地方では、7月28日12時20分までの24時間に、富山県南砺市の五箇山で170mmの雨、28日14時までの24時間に石川県金沢市の医王山で140mmの雨を観測。28日7時30分までの1時間で、五箇山で75mmの雨を観測したほか、石川県と富山県の各地で1時間に100mmを超える雨が解析されました。

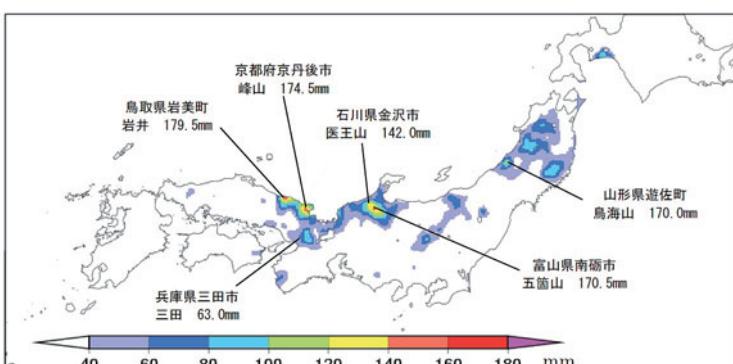
近畿地方では、29日12時までの24時間に、京都府京丹後市の峰山で167・5mm、29日12時10分までの24時間に、京都府長岡市の長岡京で133・5mmの雨を観測。28日13時30分までの1時間で、峰山で80mmの雨、14時までの1時間に長岡京で76・5mmの雨を観測したほか、昼頃から夜にかけて、所々で1時間に100mmを超える雨が解析されました。

主な人的被害と住家被害の状況

9月9日現在、主な人的被害は死者6人、負傷者は、計13人となっています。兵庫県神戸市では、市内の都賀川に流されて4人が死亡し、

河口付近の海上で1人の遺体が発見されました。また姫路市では落雷によって1人が亡くなりました。

また住家被害は、全壊6棟、半壊16棟、一部破損61棟で、床上浸水が536棟、床下浸水は2464棟になりました。



期間降水量分布図(7月27日～29日)

資料提供：気象庁

都道府県名	人的被害(人)			住家被害(棟)			
	死者	行方不明者	負傷者 (重傷) (軽傷)	全壊	半壊	一部破損	浸水 (床上) (床下)
青森県							3
岩手県							1 7
秋田県							7
山形県							10
新潟県							4 103
富山県			1 2	4	7	48	2 278
石川県				2	9	6	507 1,486
福井県							1
静岡県			4			6	
三重県						1	
滋賀県			1				
京都府							22 515
大阪府							40
兵庫県	6		5				8
岡山県							6
計	6	0	1	12	6	61	536 2,464

人的・住家被害の状況(消防庁調べ:9月9日18時現在)

避難の状況

は、岩手県洋野町、富山県南砺市、石川県金沢市・内灘町、京都府宮津市、京丹後市で約1万3000世帯を対象に発令されました。

その他の被害等の状況

避難指示は、7月28日8時50分に

石川県金沢市で約2万1000世帯を対象に発令されました。避難勧告

は、岩手県洋野町、富山県南砺市、石川県金沢市・内灘町、京都府宮津市、京丹後市で約1万3000世帯を対象に発令されました。

災害警戒情報が発表され、富山県、石川県、新潟県、京都府、岩手県の11市町で70件の土砂災害が確認され

ています。

電力は、各地の延べ停電戸数が約

10万9000戸にも上りましたが、すべて復旧されています。水道は、富山県と石川県で985戸が断水しましたが、現在はすべて復旧済みです。道路については、通行止めとなつた国道156号と304号の代替路として7月28日から8月5日まで、東海北陸道の福光IC～五箇山ICの区間において、無料通行措置が実施されました。現在、高速、有料道路、国道、県管理国道の通行止め区間はありませんが、都道府県道では6区間が全面通行止めとなっています。

農林水産関係では、農作物等の浸冠水等による被害が、秋田県、新潟県、富山県、石川県で499ha。農地の

損壊は、12府県で2130ヵ所、農業用施設等の損壊は、12府県で1712ヵ所となっています（すべて9月9日現在）。
7月28日、内閣府など関係各省庁では情報収集連絡体制を強化し、対応しました。

同日、自衛隊は、石川県知事から情報収集に関する災害派遣の要請を受け、情報収集活動を実施しました。7月28日を適用日として、富山県は南砺市に災害救助法を適用し、石川県は金沢市に災害救助法と被災者生活再建支援法を適用しました。

また、「平成20年7月27日から同月29日までの間の豪雨による富山県

政府の主な対応等について

南砺市及び石川県金沢市の区域に係る災害」を局地激甚災害に指定し、農地等の災害復旧事業等に係る補助の特別措置等が適用されています（8月29日公布）。



金沢市板ヶ谷町で、大雨による土砂崩れが起き、土蔵が倒壊した民家（写真提供：時事）



金沢市で復旧にあたる市民とボランティアの人々（写真提供：金沢市）



南砺市の中でも被害の大きかった城端地域出丸地区の復興の様子（写真提供：南砺市）



神戸市灘区では都賀川が増水し、子どもたちを含む5人が亡くなった（写真提供：神戸市）

南砺市の増水した山田川の田屋橋（福野地域）付近の様子（写真提供：南砺市）



平成20年8月末豪雨による被害状況等について

被害状況等について

8月28日から30日にかけては、東海地方や関東地方を中心として、短時間の記録的な大雨が観測されるなどして、広範囲で浸水等の被害が発生しました。

国内災害レポート

大雨の状況

8月26日、東シナ海を進んできた低気圧が九州南部に接近。これに伴い、27日にかけて西日本の太平洋側

を中心に、南から暖かく湿った空気が流れ込み大雨となりました。また、この低気圧が日本の南海上に進んだ28日から31日にかけては、本州付近に停滞した前線に向かって南から非

常に湿った空気の流れ込みが強まり、大気の状態が不安定となつて、東海、関東、中国、および東北地方などで記録的な大雨となり、河川の増水や土砂崩れが発生しました。

愛知県岡崎市では、29日の1時間雨量が観測史上1位を更新する146.5mmに達し、他の地域でも、

1時間雨量の記録を更新した地点が全国で20カ所を超える局地的な短時間の非常に激しい雨が降りました。

気象庁では、愛知県をはじめとする各地で大きな被害をもたらしたこの大雨を「平成20年8月末豪雨」と名付けています。

主な人的被害と住家被害の状況

9月10日現在の発表によると、この豪雨による人的被害は、愛知県で死者3人（うち1人は、この災害によるものか確認中）、負傷者2人。

千葉県で負傷者1人となつています。愛知県岡崎市で亡くなつた2人の方は、76歳の女性が家の

中で水死、行方不明となつて80歳の女性は、後に日間賀島（南知多町）にて遺体で発見されています。

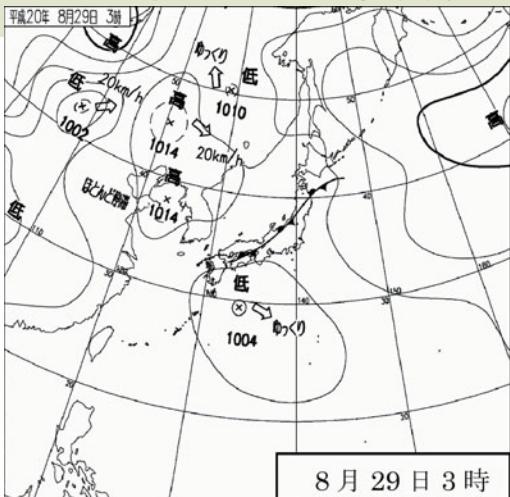
住家被害は、全壊5棟、半壊が1棟、一部破損が

18棟、床上浸水が1678棟、床下浸水が8071棟が発生しています。

避難の状況

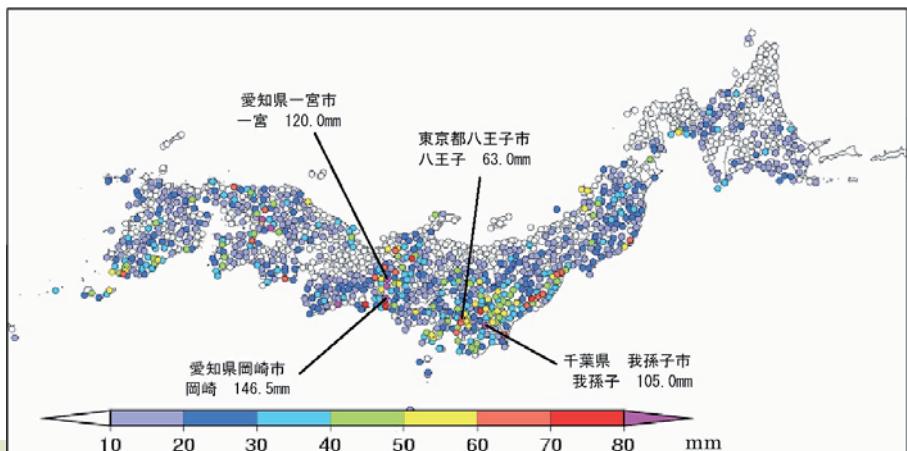
避難勧告は、8月28日から29日にかけて、愛知県名古屋市、岡崎市など3都県7市町で合計約51万世帯を対象に発令されました。

平成20年8月29日3時の天気図



資料提供：気象庁

期間最大1時間降水量分布図（8月26日～31日）



資料提供：
気象庁

その他の被害等の状況



被害の大きかった愛知県岡崎市伊賀川周辺（写真提供：岡崎市）



家屋が全壊した東京都八王子市（写真提供：八王子市）

都道府県名	人的被害（人）			住家被害（棟）			
	死者	行方不明者	負傷者（重傷）（軽傷）	全壊	半壊	一部破損	浸水（床上）（床下）
北海道							3
青森県							4
岩手県					1	3	13
宮城県					1	1	67
秋田県						1	12
福島県						1	24
茨城県				5	66	240	
栃木県					20	153	
群馬県					5	101	
埼玉県						121	2267
千葉県		1			1	178	801
東京都			1		5	72	222
神奈川県						18	63
石川県							3
福井県						1	
長野県							15
岐阜県						18	151
静岡県							1
愛知県	3	0	2	4	1	2	1124 3147
三重県						1	12
京都府							1
鳥取県							4
岡山県							11
広島県					1	48	667
山口県							7
徳島県					1		8
香川県							59
愛媛県						1	15
計	3	0	0	3	5	1	18 1678 8071

人的・住家被害の状況（消防庁調べ：9月10日21時15分現在）

土砂災害は、8月28日から9月1日にかけて24都道府県234市町村に土砂災害警戒情報が発表され、東北から九州地方までの31町村で54件の土石流やがけ崩れが確認されています。

河川の状況は、計画高水位を超えた河川が愛知県庄内川水系など延べ4水系、4河川。はん濫危険水位を超えた河川が延べ4水系、5河川。避難判断水位を超えた河川が延べ14

戸、都市ガスの供給停止が114戸、断水が142戸となっています（すべて復旧済み）。

道路や交通機関への影響は、都道府県道の4区間で全面通行止め。鉄道は、京王電鉄では高尾山口駅から高尾山駅の間で列車が脱線し、運転中止などの被害がありました（8月30日に運転再開）。

また、ライフラインにおいては、全国で停電が延べ約8万8500水系、17河川となっています。

政府の主な対応等について

て、愛知県名古屋市及び岡崎市に対して災害救助法及び被災者生活再建支援法を適用しました。

この豪雨に対しては、林防災担当大臣を団長とした関係省庁からなる政府調査団を愛知県へ派遣したほか、災害対策関係省庁連絡会議を開催し、情報の共有と今後の対策について申し合わせました（8月29日）。また、自衛隊では愛知県知事からの災害派遣の要請を受け、孤立住民の有無・調査等を実施しました。

愛知県は8月28日を適用日とし

※愛知県名古屋市の住家被害（半壊1世帯、一部破損1世帯、床上浸水1149世帯、床下浸水8071世帯）は左記表では未計上
※茨城県の一部損壊の5棟は突風によるもの

TOPICS

2008

防災週間レポート

in さいたま市

みんなで目指す災害の犠牲者ゼロ

毎年9月1日は「防災の日」、そしてこの日を含む1週間は「防災週間」。

今年も全国各地で、防災訓練やイベントが行われました。

「防災フェア 2008」が行われたさいたま市を中心に、
「総合防災訓練」「まちづくりフォーラム」をレポートします！



さいたま市総合防災訓練

さいたま市岩槻区川通公園野球場隣地グラウンドで、平成20年度さいたま市総合防災訓練が行われました。地震初期対応訓練では、初期消火2や炊き出し訓練7など。発災対応訓練では、自衛隊による倒壊建物救出訓練1、消防局による中高層建物救出訓練3、警察による多重衝突事故救出訓練5、消防団などによる水防訓練6、東彩ガスによるライフライン応急訓練4などが行われました。

撮影：加藤タケ美

REPORT 1

さいたま市 総合防災訓練 避難場所 夜間運営訓練 [岩槻区]

19:30

講話「避難場所における健康管理」

後片付けをした後、食堂で岩槻区保健センター所長のお話を聞く。エコノミークラス症候群防止のための体操なども行う。



16:30

避難場所運営委員会

食堂にて、各班の代表と職員が状況を報告。その後、今後のスケジュールを確認。訓練とはいえ、本格的な会議。



22:00

就寝



合宿所へ移動し、非常用毛布の配布、巡回問診、環境班による校内巡視を行う。

30日 6:00

起床

心技館に集合してラジオ体操。その後、再び巡回問診。



7:15

朝食

食堂で、菓子パン2個と飲み物の朝食をとつて、後片付け。その後、今回の訓練についてのアンケートを記入。

17:00

各種訓練

あいにくの雨のため、予定されていた仮設トイレの組み立てやトイレの水流し、給水訓練などは中止。急遽、防災について学べるビデオを見る。

炊き出し訓練

食糧班は、炊き出しの訓練を行う。アルファ米の五目ご飯やみそ汁を作り、事前に練習をしていたので、食材の分量や調理時間にとまどうことなくスマーズに終了。

18:30

夕食

心技館の掃除をして食堂へ移動。緊張がほどけて楽しく夕食。「意外においしい」との声があちこちで上がる。



閉所式・解散

各訓練会場の後片付けをして、食堂にて閉所式。自治会長の挨拶の後、解散。一気に緊張がほどけて、みんな笑顔に。



リーダーの倉持操さんは「多くの方が本当に熱心に取り組んでくれた。災害時だけでなく、日頃の地域のつながりのためにも、とても良い体制ができたと思います。これを維持するためにも訓練を続けていきたい」と訓練を振り返りました。

訓練当日はどことなく緊張が漂いながらも112人の参加者は各自持ち場をそつなくこなして訓練は無事終了。夜は寝つけない人も多かったようですが、翌朝の解散式後には、みなさん一同に「参加して良かった」と笑顔で会場を後にしました。

今年度より、さいたま市の全区では、避難場所運営訓練を実施することに。その先陣を切り、8月29日～30日に行われた岩槻区の訓練をレポート！

29日 15:00

地震発生！



各地区にある一時避難場所に集合したのち、指定の避難場所である埼玉県立岩槻商業高校へ。

16:00

避難者受付



体育館前の受付で、総務班は避難者に避難者カードを記入してもらい、避難者リストを作成。その後、避難者は心技館（武道場）へ移動。

岩槻区は今年3月、災害時に県立岩槻商業高校を避難場所とする4つの自治会を中心に、施設管理者（高校）、地元のボランティア、区職員等からなる66人と4団体の避難場所運営委員会を結成しました。結成後は、全体会議や各班（総務・情報・救護・食糧・物資・環境）の検討を重ねてきました。それを踏まえ、今回の訓練はより実践的な内容を反映した計画としました。



会場入り口の様子。屋外会場の鐘塚公園などには、防災グッズや設備を展示したブースが並んだほか、起震車や土砂災害体験車、降雨体験車なども用意され、特に家族連れてにぎわった

REPORT 2 防災フェア 2008 inさいたま

今こそ、災害への関心を
自助・共助の行動へとつなげよう!
～あなたの行動と地域のつながりで
高める防災力～



消防局による応急手当体験では、隊員の指導を受けながら、人形に心臓マッサージ。脈も測れるリアルな作りで、蘇生すると目が開いたのには、お母さんもびっくり!

内閣府、さいたま市、防災推進協議会は、8月22日から25日の4日間にわたり、さいたま市大宮区大宮ソニックシティ周辺において「防災フェア 2008 in さいたま」を開催しました。

あいにくの雨のために一部のイベントは中止となりましたが、気軽に参加できる催しが多く、家族連れからお年寄りまで、幅広い世代が訪れました。

列ができるほどにぎわったのは、地震を体験できる起震車。さばの味噌煮やハンバーグ、ケーキなど、非常食の試食も人気。防災に関するクイズや紙芝居のほか、模型を使った建物の耐震実験や防災ガラスの破壊実演、心臓マッサージ体験などは、大人も子どもも興味津々でした。



(社)日本建設業団体連合会による、子ども向けの実験。ビーカーを使った液状化の実験や、模型を実際に揺らしての建物の耐震・免震実験など、子どもたちの表情は真剣

非常食の試食コーナー。最近の非常食は、ごはん以外のおかずも豊富

日本赤十字社による応急手当講習。参加者にも三角巾が配られ、手当を学んだ



国内外の災害写真が並んだ防災パネル展。今年度の防災白書のパネルも展示



子どもも大人も簡単に建物の耐震が学べる「かみぶる」



大きな揺れに悲鳴が上がった起震車。「もう一回乗ったい！」という子どもたち



PICK UP 3 シンポジウム



過去の災害経験から日本の災害対策を考える

「日本の災害対策を考える」と題して行われたシンポジウムでは、講演に先立ち、内閣府参事官（災害予防担当）田尻直人氏が主催者あいさつを行いました。

伊藤和明氏（NPO 法人防災情報機構会長）は、「歴史に学ぶ震災への備え」と題し、約1万人が犠牲となった1855年安政江戸地震（M7.0～7.1）や、1931年西埼玉地震（M6.9）のデータを元に、首都直下地震への備えの必要性を示唆しました。

重川希志依氏（富士常葉大学大学院教授）は、「防災に対して、いま求められている女性像とはどのようなものか」と題し、女性や子ども、高齢者など、これまで助けられる側と考えられていた立場の人たちが、防災に果たす役割について語りました。また、新潟県中越地震で被災した生徒の作文を取りあげ、被災者の気持ちの移り変わりを紹介しました。

山崎登氏（日本放送協会解説主幹）は、「地域の防災の力を高めるために」と題し、大規模地震発生の切迫性が高まっている中、国民の防災意識をいかにして実際の防災行動へつなげるかについて語りました。自らの取材経験に基づき、自主防災組織の重要性と耐震補強の必要性を強調。また、緊急地震速報によって避難行動がとれた人々の例を、事例をあげて紹介しました。

PICK UP 2 防災教室



中学生の「防災」に関する疑問に専門家が答える

防災フェア3日目の8月24日には、さいたま市立八王子中学校の生徒35人が参加して防災教室が開催されました。講師は伊藤和明氏（NPO 法人防災情報機構会長）。親水公園が氾濫していく様子などをスライドで見せながら「楽しい遊びを提供してくれる自然がひとつ災害となると一瞬にして恐ろしい顔を見せる」と自然災害の脅威とその対処法についての話がありました。

続いて、質疑応答。「防災訓練はなぜ必要なんですか」という質問に、1983年の三宅島噴火の際に日頃の防災訓練のおかげで犠牲者が出なかったという例を示しながら、「地震でも集中豪雨でも、災害が起きると想定して備えをするのが防災訓練。家庭用の消火器も訓練しないと使い方がわからない。普段からやっておくことで、防災の力が増すんです」と伊藤氏。「防災について後世に残したいことは何ですか」という質問には「日本ではたびたび災害が起きました。そのとき何が起きたか、過去に自分達が経験したことを伝えることは大事なことです。現在、内閣府の中央防災会議で、過去に起きた災害を一つひとつ報告書にまとめていますが、それも将来の人に学んでもらい、役立ててもらうためです」と答えてくれました。その他にも興味深い質問が幾つも。伊藤氏の回答に子どもたちは真剣に耳を傾けていました。

PICK UP 1 防災集中講座



最新の防災の知識を学び災害に備える

自助を促す取り組みとして、地震研究や危機管理を専門に活躍している講師をお招きし、防災の実践的知識を学ぶことができる「防災集中講座」が行われました。

3つの講座を聴講すると修了証がもらえることや、災害に関する第一人者への質問のコーナーがあるとのことで、子どもから大人まで多くの方が参加し、活発な質疑応答が行われました。

翠川三郎氏（東京工業大学大学院教授）は、「地震発生のメカニズム、どこで、どんな大地震が発生するのか」をテーマに、揺れやすく被害を受けやすい場所はどのようなところなのかについてを示唆しました。

鈴木淳氏（東京大学大学院准教授）は「過去の災害（関東大震災）に学ぶ」とし、流言などによる被害拡大を繰り返さないために、不確実な情報に惑わされず、自分で判断することが重要だと説きました。

国崎信江氏（危機管理アドバイザー）は、「家庭で職場で災害にどう備えるか」と題し、災害への備えは、災害時のイメージを明確にもつことからと訴えました。被災時には、第三者が支給してくれない、薬などの「無いと困るもの」をイメージし、それを中心に持ち出すようにと呼びかけました。

全国防災 まちづくり フォーラム

第4回目となる今回のテーマは
「被災してわかること」。

震災下や日頃の防災活動について
積極的な意見が交わされました。



プログラム1 基調講演

「防災フェア2008・㏌さいたま」

開催中の8月24日。13時から約5時間にわたり、大宮ソニックスティの

国際会議場で「全国防災まちづくりフォーラム」が開催されました。テーマは「被災してわかること」。主催者は「被災してわかること」。

福島県放送局報道部副部長で、防災

情報番組「ネットワーク1・17」のプロデューサーでもある大牟田智佐子さんによる基調講演が行われました。

講演のタイトルは「防災まちづくりは『わがこと』と『大きなお世話』から」。住民の特技をいざというとき役立てる兵庫県・加古川グリーンシティの「町内チャンピオンマップ」、宝塚市で地域と学校との結び付け役となつたボランティアの活動や、神戸市内の2地区における復興過程の比較など、具体例を交えながら災害時に結束力が發揮されるコミュニティづくりの大切さを訴えました。「想定外のことが起きる震災下では、とつさの判断ができる人間力が必要。そして、そんな力のある人材を生み

プログラム2 リレートーク

続くプログラムは、「被災してわかる日頃からの共助・防災まちづくりの大切さ」をテーマとしたリレートーク。聞き手は、大牟田さんと埼玉県

さいたま市の三橋コミュニティ役員・清水恒男さん。発表者は、岩手・宮城内陸地震で被災した栗原市花山総合支所長の千葉和俊さん、栗原市栗駒耕英地区行政区長の金沢大樹さん、くりこま耕英震災復興の会会長

の大場浩徳さん、能登半島地震で被災した輪島市門前町門前区長の星野正光さん、新潟県中越沖地震で被災した柏崎市松美町内会長の関矢登さん

で、それぞれ震災下での具体的な体験や復興への取り組みが語られました。

●宮城県仙台市宮城野区福住町 町内会会長 菅原康雄さん

「隗より始めよ」小単位の町内会だからできること」と題して、まずは

予算ゼロから取り組んだ、独自の防災計画を紹介。名簿作り・マニュアルを含めた組織体制作りの流れ、災害対策本部長を筆頭にした災害時組織編成のほか、家具の転倒防止、災害用トイレやペットへの対応など、

出していかなくてはなりません。まちづくりは人を巻き込んでいく「ダチづくり」なんです」と大牟田さん。

基調講演をする大牟田さん。ラジオ放送以外にも中央防災会議「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する専門調査会」委員等として防災に取り組んできている

プログラム3 パネルディスカッション



具体的な災害対策を発表しました。

その後は、聞き手からの質問の時間に。各被災関係者の話を受けて、清水さんと大牟田さんが会場を代表して、気になる点などを聞きました（詳細は25ページのコラムを参照）。

被災してわかる 日頃からの共助・ 防災まちづくりの大 切さ

【岩手・宮城内陸地震】

多くの河道閉塞や山の崩落が生じた栗原市。中でも今回は花山地区や栗駒耕英地区の様子が話されました。集落に入る道路が通行不能になった栗駒耕英地区では、住民はヘリコプターで避難。避難所のスペースに余裕はあったものの、不安・不満がつわり、次第に「山に戻りたい」という住民の声が高まりました。そこで、一時帰宅が実現したところ、人々の心に余裕が生まれたそうです。また、仕事ができない避難所生活が続くと気持ちに張りがなくなるため、特産品のイチゴの一部をなんとか持ち帰り、ジャムに加工。支援者へのお礼はもちろん、自分たちの励みになりました。

【能登半島地震】

そば・豆腐屋を営む星野さんは、阪神・淡路大震災などの現場に行った経験から、費用をかけてお店の補強工事を実施。そのため、従業員を含め、震災で命を落とさずにすみました。震災では、「うなった(なくなった)のは物だけや」というお年寄りの明るさに救われ、「心が復興すれば、物は後からついてくる」と実感。人の命が助かったのは地域の救い、と振り返りました。また、大切なのは災害をイメージすること、と強調。災害を考えることで事前の備えが分かるだけでなく、震災下では知識と実行力をもってリーダーシップを発揮できると訴えました。

【新潟県中越沖地震】

震災では初期対応が大切であり、地域で助け合うことが不可欠、と関矢さん。ボランティアのコーディネイトをするにあたり、独自で行った住民へのアンケートが役立ったことを紹介しました。まちづくりにおいては、中心となるメンバーが固定されないよう、町内の行事別に実行委員会を作っているとのこと。PTAや民生委員にも加わってもらうことで、まちづくりの意識を普及させています。被災から1年経った現在も、静岡や富山などへ自主防災組織づくりの勉強に出かけるなど、ささやかでも助け合いの気持ちが根付くように取り組んでいます。

●三重県特定非営利活動法人
災害ボランティアネットワーク鈴鹿
事務局 船入公孝さん

「防災まちづくり活動～継続のヒントとは～」について、まず「子どもたちをうまくまとめてこと！」を挙げました。2日間にわたる防災訓練・体験「防災子どもサミット」を行つたことで、子どもたちが両親や祖父母に防災の話をるように。その結果、3世代にわたる防災活動「三ちゃん防災サミット」が実現。さらに、子どもたちに大人が導かれて活動が

の必要性を訴えました。現在、福住町は3カ所の町内会と災害時支援協力協定を結んでいます。

●三重県特定非営利活動法人
災害ボランティアネットワーク鈴鹿
事務局 船入公孝さん

「防災まちづくり活動～継続のヒントとは～」について、まず「子どもたちをうまくまとめてこと！」を挙げました。2日間にわたる防災訓練・体験「防災子どもサミット」を行つたことで、子どもたちが両親や祖父母に防災の話をのように。その結果、3世代にわたる防災活動「三ちゃん防災サミット」が実現。さらに、子どもたちに大人が導かれて活動が

続き、「子どもがかわると止められない」と締めくくりました。

●奈良県上牧町
西大和6自治会連絡会
事務局（防災担当）辻誠一さん

まずは、防災組織の経過を説明。その後、年間行事の中から「子供



パネルディスカッションの様子。左から、菅原さん、船入さん、辻さん、清水さん

●埼玉県さいたま市
三橋コミュニティ役員
清水恒男さん

コミュニケーションの紹介の後、昨年の八都県市合同防災訓練の一環として行つた「避難場所夜間運営訓練」について発表しました。地震発生から、避難場所受付、各種訓練、夕食、宿

泊までの流れに沿つたスライドを見せたのち、「地域住民の結束力なくしては、災害に立ち向かえない」と締めくくりました。

●埼玉県さいたま市
三橋コミュニティ役員
清水恒男さん

各発表の終了後は、相互交流の時間となりました。今後の防災活動のヒントを得たり、震災下の復旧・復興に向けた支援の輪を広げるなど、貴重な機会となりました。

プログラム4 相互交流の時間

各発表の終了後は、相互交流の時間となりました。今後の防災活動のヒントを得たり、震災下の復旧・復興に向けた支援の輪を広げるなど、貴重な機会となりました。

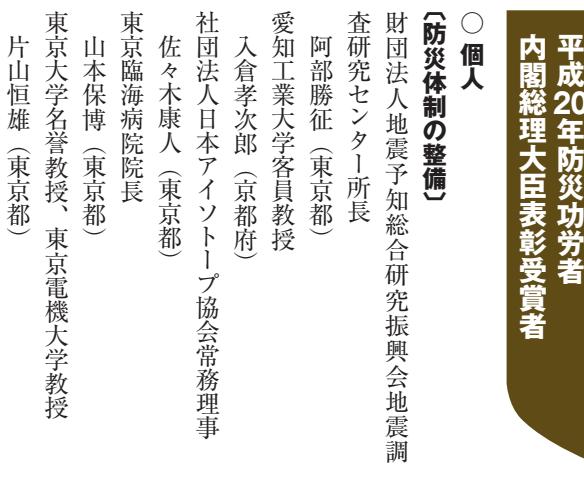
防災の動き

Commendation

このページでは、内閣府（防災担当）や防災に関する府省庁からのお知らせや、公共団体・企業・NPOの防災活動などを届けます。

平成20年防災功労者を表彰

内閣府では平成20年度防災週間行事の一環として、
防災功労者（団体、個人）を表彰しました。



災の日」及び「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

平成20年防災功労者内閣総理大臣表彰は、5個人12団体が受賞し、9月2日（火）に総理大臣官邸で表彰式が執り行われました。また防災功労者防災担当大臣表彰は9個人6団体が受賞し、9月5日（金）に表彰式が行われました。

防災功労者内閣総理大臣表彰は、『防

災の日』及び『防災週間』について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

（台風第4号及び梅雨前線による大雨における消防団の災害出動）

（平成19年新潟県中越沖地震における消防団の災害派遣活動）

（平成19年豪雨における消防団の災害派遣活動）

（平成19年新潟県警察総合警備本部）

（新潟県警察災害警備本部）

（海上自衛隊舞鶴地方隊災害派遣部隊）

（陸上自衛隊第12旅団災害派遣部隊）

（航空自衛隊中部航空方面隊災害派遣実施部隊・同支援部隊）

（航空自衛隊航空支援集団）

○団体

柏崎市消防団（新潟県）

刈羽村消防団（新潟県）

南大隅町消防団（鹿児島県）

（平成19年新潟県中越沖地震における災害派遣活動）

（平成19年豪雨における消防団の災害派遣活動）

（平成19年新潟県警察総合警備本部）

（新潟県警察災害警備本部）

（海上自衛隊舞鶴地方隊災害派遣部隊）

（陸上自衛隊第12旅団災害派遣部隊）

（航空自衛隊中部航空方面隊災害派遣実施部隊・同支援部隊）

（航空自衛隊航空支援集団）



内閣総理大臣表彰式の様子（総理大臣官邸）



内閣総理大臣表彰式

平成20年防災功労者
防災担当大臣表彰受賞者

○個人

〔災害時の防災活動〕

島倉與志貴（富山県）
黒田裕子（兵庫県）

〔防災思想の普及〕

小山重之（宮城県）
小山富美雄（熊本県）

〔防災体制の整備〕

藤井敏嗣（東京都）
坂本功（兵庫県）
西田良平（鳥取県）
玉田文吾（福岡県）
高橋和雄（長崎県）

○団体

〔災害時の防災活動〕

社団法人新潟県看護協会（新潟県）
にいがたG I S協議会（新潟県）

〔防災思想の普及〕

トヨタボランティアセンター（愛知県）

〔防災体制の整備〕

女性防災クラブ平塚パワーズ（神奈川県）
高齢者総合ケアセンターコボシ園（新潟県）
七条学区自主防災会（京都府）
以上9個人6団体



防災担当大臣表彰式の様子（内閣府本府）

Training

平成20年度総合防災訓練

政府は、毎年9月1日の『防災の日』に、災害発生時の応急対策に関する準備の検証・確認と、国民の防災意識の高揚を図ることなどを目的として、関係地方公共団体等との連携により総合防災訓練を実施しています。

本年度の実施状況は以下のとおりです。

- (4) 東南海・南海地震についても同様に、近い将来発生する可能性がある大規模地震であり、本年は初めて東南海・南海地震を対象として、政府本部運営訓練を実施しました。
- (3) 災害派遣医療チーム（D.M.A.T.）が参加して、航空機等による広域医療搬送訓練を実施しました。
- (2) 大阪府岸和田市の「浜工業公園会場」で、大阪府府廳に宮澤内閣府副大臣等を派遣し、大阪府災害対策本部との合同連絡調整会議に出席しました。
- (1) 東南海・南海地震を想定した近畿府県合同防災訓練と連携し、自衛隊、警察、消防、海上保安庁等による広域的な地震災害応急対策訓練を実施しました。

1—近畿府県合同防災訓練と連携した訓練

具体的には、総理官邸において、緊急参集チームの参集・協議、内閣官房長官会見、関係閣僚協議、臨時の閣議、内閣総理大臣会見、第1回緊急災害対策本部会議（内閣総理大臣と大阪府知事、内閣府副大臣とのテレビ会議を含む）防災担当大臣会見等の一連の訓練を実施しました。

これまで、総合防災訓練における政府本部運営訓練では、近い将来発生する可能性が指摘されている大規模地震を対象として、東海地震や首都直下地震を想定した訓練を実施してきました。東南海・南海地震についても同様に、近い将来発生する可能性がある大規模地震であり、本年は初めて東南海・南海地震を対象として、政府本部運営訓練を実施しました。

及び「ちきりアイランド阪南2区会場」に、内閣総理大臣（団長）、防災担当大臣・国家公安委員会委員長、総務大臣、防衛大臣等を政府調査団として派遣しました。

2—静岡県総合防災訓練と連携した訓練

東海地震を想定した静岡県総合防災訓練と連携し、自衛隊、警察、消防、海上保安庁等による広域的な発災前の地震防災応急対策訓練を実施するとともに、発災後の地震災害応急対策訓練を実施しました。

3—八都県市合同防災訓練と連携した訓練

静岡県静岡市の「駿河区会場」及び「清水区会場」に、山本内閣府事務次官等を政府調査団として派遣しました。



9月1日に行われた第1回緊急災害対策本部会議

東南海・南海地震
おおむね100～150年間隔で発生しています。
おり、今世紀前半での発生が懸念されています。
全壊約36万棟、死者約1万8千人の大きな被害が予想されています。

(1) 首都直下地震を想定した八都県市合同防災訓練と連携し、自衛隊、警察、消防、海上保安庁等による広域的な地震災害応急対策訓練を実施しました。

(2) 神奈川県横須賀市の「横須賀新港埠頭会場」に、並木内閣府大臣政務官等を政府調査団として派遣しました。

Caravan

災害時要援護者に関する 全国キャラバンを開催します

政府では、災害時要援護者の避難支援対策に関する市町村の取組みを支援するため、
全国キャラバンを開催します。



日程・場所（予定）

11月4日（火）香川県高松市（アル
ファあなんぶきホール）

災害時には高齢者等の災害時要援護者の犠牲が多いことから、避難支援対策を進めるために、各市町村において取組がなされています。しかし、様々な課題や問題に直面することも多く、なかなか進んでいないのが現状です。
このため、要援護者対策をどのように進めているのか、取組の参考となるよう、全国キャラバンを全国の主要都市8箇所で開催し、各自治体の先進的な取組、工夫をされた取組を紹介します。
対策を進めるにあたっての課題などがあり、悩んでいらっしゃる市町村の担当の方の方、また要援護者対策について詳しく知りたい市町村や県の担当の方など、この機会にぜひご参加いただきますようお願いいたします。



11月7日（金）東京都千代田区（中央合
同庁舎5号館2階講堂）
11月10日（月）宮城県仙台市（仙台商
工會議所）
11月12日（水）北海道札幌市（札幌市
生涯学習センターちえりあ）
11月17日（月）大阪府大阪市（浪速人
権文化センター）
11月19日（水）広島県広島市（広島市
東区民センター）
11月21日（金）愛知県名古屋市（名古
屋港湾会館）
11月25日（火）福岡県福岡市（福岡市
民会館）

- 災害時要援護者対策についての説明
(内閣府・消防庁・厚生労働省・国土
交通省)
- 先進地事例紹介（2、3の自治体）
(計画策定の進め方、取組の具体的な
内容、教訓など)
- 質疑応答

プログラム（予定）



問い合わせ先

本キャラバンは、原則として都道府県と
市町村の担当職員を対象としています。
申し込み方法は、内閣府防災情報のペー
ジ「災害時要援護者対策」をご覧ください。
参加費は無料です。

その他

内閣府（防災担当）災害応急対策担当
TEL：03-33501-5695

アクセス

内閣府防災情報のページ
「災害時要援護者対策」
<http://www.bousai.go.jp/3oukyutaisaku/>

1959年9月26日 伊勢湾台風

文：安田孝志（岐阜大学工学研究科環境エネルギーシステム専攻エネルギーシステム講座教授）

昭和34年9月26日、紀伊半島の南端・潮岬に上陸した台風15号は、60～70kmの速度で紀伊半島を縦断。27日にはいったん、日本海に抜けたものの

再び、東北地方に上陸しました。伊勢湾岸の高潮により、大災害をもたらしたため、「伊勢湾台風」と命名され、

「室戸台風」「枕崎台風」とあわせて昭和の3大台風と呼ばれています。

伊勢湾台風は、今から50年近く前の昭和34年（1959年）9月26日の18時過ぎに潮岬の西に上陸し、伊勢湾周辺地域を中心に台風灾害による犠牲者としては明治以降最多となる5098名（死者・行方不明者数）に及ぶ大灾害を引き起こしました。

伊勢湾台風は、今から50年近く前

929.5 hPaであり、これは昭和

9年の室戸台風の911.8 hPa（室戸岬測候所）、昭和20年の枕崎台風の916.6 hPa（枕崎測候所）、昭和36年の第2室戸台風の925 hPaに次ぐものでした。しかししながら、犠牲者の数はそれまで

があります。

災害の規模は、災害を引き起こす原因となる台風やそれによる高潮などの外力（これを誘因と言います）、外力を受ける側の地形・地質や災害対策などによる抵抗力（このような被害対象の性質を素因と言います）

台風がもたらす歴史的大災害が、成長へと向かう矢先の日本を襲つた

また、この灾害を契機として、今日の我が国の防災対策の原点となつてゐる「災害対策基本法」が制定されるなど、歴史的にも特筆される台風となっています。

この台風の上陸時の中心気圧は潮岬測候所において観測された

最多であつた室戸台風による3036名を大きく上回り、台風の強さに比べて被害が格段に大きかつた点に特色があります。また、この

台風による犠牲者は全国36道府県に及びましたが、その83%が愛知・三重両県に集中した点にも大きな特色

および被害を拡大する要因（拡大要因）の組み合わせによつて決まります。

伊勢湾台風による災害を、まず、誘因の観点から見ますと、上陸時の気圧こそ4番目でしたが、それによつて生じた高潮は観測史上最高の3・

伊勢湾台風 PROFILE

上陸時中心気圧	» 929.5 hPa
高潮	» 3.55m (名古屋港)
死者・行方不明者	» 5,098 人
住家全壊	» 40,838 棟
半壊	» 113,052 棟



写真-3 泥沼と化した名古屋市西部（出典：建設省『伊勢湾台風災害誌』）



写真-2 写真-1の堤防の寸断によって高潮氾濫の直撃を受け、跡形もなく流失した半田の住宅（出典：中日新聞社『伊勢湾台風の全容』）



写真-1 半田武豊海岸堤防の被災（出典：中日新聞社『伊勢湾台風の全容』）

55m（名古屋港）であり、それまでの最高であった室戸台風による2.9m（大阪港）をはるかに上回るものでした。これが満潮に近い潮流に加わり、名古屋港でのそれまでの最高潮位を1m近く上回る潮位となりました。これに強風による暴風波浪が加わって、堤防を寸断し（写真-1）、住宅団地を土台だけ残して洗い流すなどの猛威を振るいました（写真-2）。

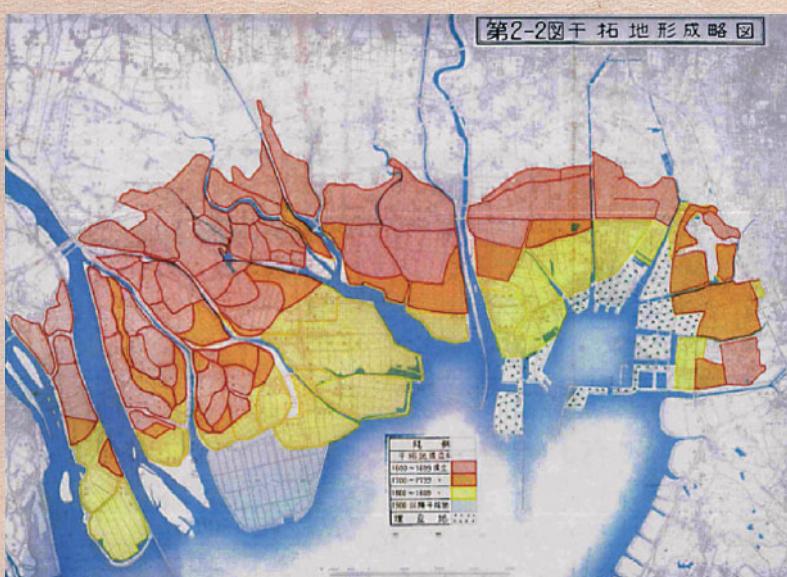
次に素因について見ますと、一般に高潮が発達しやすい湾の奥には低平な沖積平野が広がっていることが多いのですが、伊勢湾とその湾奥部はその典型とも言うべき地形になっています。しかも、その先には、徳川時代以降の干拓によって陸地化された土地が広がっていました（図-1）。このような水害に対しても極めて脆弱な低平地が戦後の復興・発展の過程で不十分な防災対策のまま市街化され、そこに観測史上最大の高潮が暴風・暴浪とともに来襲したこと、被災期間を長期化させる大災害につながりました（写真-3）。

さらにその上に被害を一層激甚化

させる拡大要因が加わり、歴史の大災害となってしまいました。この時の拡大要因としては、そこが高潮災害の危険地帯でありながら防災対策が不備であることの自覚や警戒心の不足、さらには危険地帯であることを体に対する自覚の欠如、住宅需要に応えるための大量の木材の貯木場への集積と市街地への流出、来襲が夜間であつたことなどなどが指摘されています。これらとともに、「もはや戦後ではない」という言葉が広がり始めた当時の世相も拡大要因の背景となつたのではと想像されます。それまでの毎年のよううに1000名を超える台風災害による犠牲者が続いた戦後の混乱・受難期を脱し、社会が成長に向かおうとしていた矢先でした。

防災意識の低下が避難対策の不備につながった面は否定できません。まさに、「災害は忘れた頃にやって来る」です。

これら3つの要因が重ねて作用した結果、湾奥部低平地を中心愛知・三重両県の犠牲者数を3200名を超えるまでに増大させた原因であったと言えます。しかしながら、そのような中にあっても、適切な避難によって犠牲者をゼロにしたり、大幅に軽減できた市町村を見出すことができます。次号では、こうしたことを中心に紹介します。



もし、1日前に戻れたら…

私たち（被災者）から皆さんに伝えたいこと

地震、津波、風水害……さまざまな災害を実際に体験した方に、

「もし、1日前に戻れたら何をしますか？」と訊ねたのが、「一日前プロジェクト」。被災者の声は、私たちにいろいろなことを教えてくれます。今月のテーマは『台風14号（平成17年9月）』です。

川があふれる可能性は あったと後から思う

（杉並区30代男性）

水害の後、何でそこがあんなに冠水するんだろうと不思議でたまりませんでした。

当時はこの地域の雨としか見ていなかったんですが、地面の中は実はつながっているんですね。行政は多分水系全体で考えて、どこそこがいっぱいになつたらどこそこに放流するということをやっているんでしょうけれども、普通に生活している私たちはそこまでは知らないんですよ。

あの日はけっこう上流の方も降っていたから、それも追い打ちをかけるようにこっちに来る。今思えば、確かに川があふれる可能性はあったなど。

近くの川も、よく見ると護岸の方が高くて、周りの道路がちょっと低いです。いつたん川があふれれば、水は低い方に行くから、当然道路沿いの家も水につかってしまいりますよね。

やっぱり、都会では自分の住む地域の自然環境をもっとよく知っておく必要があるなど後から思いました。



2階のトイレから水が噴き出す —洪水時の外出は危険—

（杉並区40代女性）

川が増水すると下水が逆流してトイレから水が噴き上ることがあります。今回の水害では、2階のトイレから水が噴き出した家もありました。そういう時には、ビニール袋に水を入れてポンとふたをしておけばある程度防げるそうですが、本当にビックリしました。

マンホールの蓋が持ち上げられて水が噴き出している箇所もあったので、あの時道路を流れていた水は汚水が混じっていたはずなんです。なので、子供たちが感染症にならないか心配でしたね。

臭いもきつくて、洗ってもどうにもならないので、あの日履いていた靴は捨てました。夜あまりよく見えなかったから、いろんな危険な漂流物がある所を、平気で膝ぐらいまである水の中をジャブジャブ歩いていたけれど、ずいぶん危ないことをしていたんだなと思います。

マンホールに落ちたり、感染症にかかる心配もあるだけに、洪水時に外出するときには気をつけないといけないですね。



毎年1回、震災訓練の日に 水害の記憶がよみがえる

（杉並区60代女性）

9月の第1日曜日にやろうと区長の呼びかけで始めた第1回目の震災訓練のその日の夜に水害にあったから、去年やったときも、「ああ、そういえば去年の今ごろだったんだね」ということになりました。今年も、「ああ、あれはもう2年前なんだ」ということになるから、みんな絶対忘れないんです。

あのときは、低気圧が異常に発達しちゃって、ドカンと来たわけです。天気予報を聞いて、ある程度予測していたけれど、あれだけのものが来るとは誰も想像できませんでした。で、それがトラウマ＊になって、今でも雨が強く降るとすぐ心配になります。「災害は忘れたころにやってくる」と言いますから、毎年1回、訓練の日にあの日のことを思い出す、水害があったことを忘れないということは、とても大切だと思います。

※ トラウマ（心的外傷）：個人に心理的に大きな打撃を与え、その影響が長く残るような体験



被災者の実体験を聞くことができる『一日前プロジェクト』は左記HPでも見ることができます。家庭はもちろん、地域や職場など、さまざまな話が掲載されていますので、企業の「社内報」や地域での「広報」に幅広く活用してください。

友人と仕事の話になり、「新聞社の

科学分野を担当する部署にいて、地震の取材をする機会が多い」と伝えると、おおかた次の質問が返ってくる。

「関東大震災はもうじき来るのか」だ。

「関東大震災と震源は違うが、南関東でマグニチュード7級の地震が30年以内に70%程度の確率で起きるとの見通しを国は出している」と答えると、友人たちは70%と高い値に慌て始める。だが、震災から身を守る備えについての話題には発展しない。

記者の 眼

友人たちの姿勢には、「地震直前の予知情報が欲しい。30年なんて長い期間を言われても漠然としているので、備えは後回し」という意識が見え隠れする。この10年間で、地震発生の仕組みを解き明かす研究は著しく進んだ。1995年の阪神・淡路大震災以前は、前震などの地震直前に表れる現象をいかにとらえようとするものが主流だった。震災後は地震が地下で起きる仕組みを理解し、その知見に基づいて予知をしようという姿勢に変わった。

読売新聞科学部
米山肅彦

よねやま きよひこ●2001年、読売新聞社入社。盛岡支局を経て、06年から科学部。



地震予知への期待よりも…

研究が進む中で、プレート境界の地震は、「固着域」と呼ばれる強い地震波を出す領域が、急激に滑つて起きるなどが分かつてきた。固着域はおもね定期的にずれることも知られ、地震の発生確率が過去の履歴から求められるようになつた。

ただ発生確率を求める計算も、精度面から30年や10年の単位で求めるのがせいぜい。友人の「地震発生を直前に教えて欲しい」という要望には応えきれない。固着域の理論などを基にスーパーコンピューターで1年～数カ月前から地震発生の確率を求める技術の開発も始まったが、実用化は早くとも20年後だ。

地下での現象は目で見ることはかなわず、今の科学では地震発生を直前に知るのは極めて難しい。唯一、東海地震は数時間～数日前に予知できるかもしれないといふが、地盤のひずみの変化が示す前兆をとらえるのは「簡単ではない」と研究者も明言している。

一方、強い揺れに備える防災技術の方は、実生活で使える水準のものが多くある。以前に静岡県の地震防災センターを見学したが、家具を固定する器具や、家の一部だけでも耐震補

強する方法などが展示されていた。

微動を先にとらえ、強い揺れを事前に知らせる「緊急地震速報」も利用したい。断層がずれる現象である地震の発生をいち早くとらえるシステムで、発生前に知る予知とは異なるが、2007年の新潟県中越沖地震や08年の岩手・宮城内陸地震で地震速報を聞いた人が身を守ろうした事例もある。こちらは地震研究を進めうちに発明された。

ここ数年、地震はめったに起きないと住民が思っていた地域で内陸型地震が発生している。地震の予知に淡い期待を寄せるよりも、いつ強い揺れに襲われてもいいように備えをしておくほうが、無事に生き残れる可能性は高い。

地震研究に進展はあるものの、今この段階では直前予知の実現は極めて難しい現実を国民にもつと知つてもらう必要があるだろう。現状が認識されれば、防災対策を進めなくてはという気持ちを持つてもらえるはずだ。具体的な対策のやり方が分からぬといつた声も聞く。こうした疑問を一般人がぶつけられる体制作りが行政には求められる。

Next Issue

次号予告

『ぼうさい』11月号

平成20年11月末発行

特集

状況別、防災 シミュレーション

*企画は予告なく変更する場合
があります。

『ぼうさい』9月号 [No.47]

平成20年9月29日発行 [隔月刊]

<http://www.bousai.go.jp/kouhou/>

●編集・発行 内閣府(防災担当)

〒100-8969

東京都千代田区霞が関1-2-2
(中央合同庁舎第5号館3階)

TEL: 03-5253-2111 (大代表)

URL: <http://www.bousai.go.jp/>

E-MAIL: info@kouhou-bousai.jp

●編集協力 社団法人 時事画報社

〒107-0052

東京都港区赤坂7-10-17

フォンテ赤坂ビル

TEL: 03-5571-8881 (編集)

URL: <http://www.jijigaho.or.jp/>

●デザイン

株式会社スタジオ・ギブ

●印刷・製本

共同印刷株式会社

Printed in Japan

編集後記

7～8月は短期間に各地で局地的に非常に激しい雨が降り多くの被害が発生した。まだまだ台風や局地的な大雨に注意が必要な日々が続く。『風水害から身を守るために「把握する」「避難する」「声をかける」ことが重要』(7月号特集より)であり、避難場所・避難経路の把握、避難勧告による速やかな避難、日頃からの家族での話し合いや地域との助け合いを再確認し継続していくものである。(大)

これまで各地の自主防災組織、ボランティア、企業、地方自治体等を取り材させていただき、皆さんの「熱意」にいつも感心させられる。特集テーマ「住宅の耐震化率向上」は全国の自治体の大きな課題(難題)でもある。静岡県では、東海地震への高い関心がすんなり耐震補強工事等へ進んでいるわけではなかった。実際の行動・成果へつなげているのは、そこに取り組む人たちの熱意なんだとあらためて思う。(竹)



写真提供：防災科学技術研究所

地震の不安を解消する
建物の補強方法や新工法
を開発する上でも役立つ
ている。

(文・さくらい伸)

の建物が設置され、兵庫
県南部地震クラスの揺れ
を前後・左右・上下に直
接与えることで、揺れに
よる損傷や破壊の過程を
詳細に検討することが可
能だ。

に大きな被害をもたらし
た1995年の兵庫県南
部地震(阪神・淡路大
震災)をきっかけに、構
造物の耐震性があらため
て注目されるようになっ
た。大震災の教訓を受け、
施設内には、鉄筋コン
クリートや木造の実物大
の建物が設置され、兵庫
県南部地震クラスの揺れ
を前後・左右・上下に直
接与えることで、揺れに
よる損傷や破壊の過程を
詳細に検討することが可
能だ。

三木市に建設された「実
験施設(愛称 E-ディフェン
ス)」では、実物大の建物
を使って耐震性を検証す
る実験が行われている。
施設内には、鉄筋コン
クリートや木造の実物大
の建物が設置され、兵庫
県南部地震クラスの揺れ
を前後・左右・上下に直
接与えることで、揺れに
よる損傷や破壊の過程を
詳細に検討することが可
能だ。

家屋や都市基盤施設

2005年4月、兵庫県

防災技術 Front Line

建物の耐震性を検証できる、
世界最大の振動台

E-ディフェンス

Schedule

8月～9月の動き

- | | |
|------------|------------------------------------|
| 8月5日 | 中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会」(第13回) |
| 8月22日～25日 | 防災フェア 2008 in さいたま(さいたま市) |
| 8月30日～9月5日 | 防災週間 |
| 9月1日 | 防災の日、平成20年度「防災の日」総合防災訓練 |
| 9月2日 | 平成20年防災功労者内閣総理大臣表彰式 |
| 9月5日 | 平成20年防災功労者防災担当大臣表彰式 |
| 9月8日 | 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」(第11回) |
| 9月16日 | 雪害による犠牲者ゼロのための地域の防災力向上を目指す検討会(第1回) |

10月～11月の予定

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 10月3日 | 中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」(第35回) |
| 10月3日 | 被害の実態に即した適切な住家被害認定の運用確保方策に関する検討会 |
| 10月中旬 | 重要文化財建造物の総合防災対策検討会(第2回) |
| 10月下旬 | 中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会」(第14回) |
| 10月下旬 | 平成20年度原子力総合防災訓練 |
| 11月中旬 | 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」(第12回) |
| 11月12日～14日 | 「アジア防災会議 2008」(於:インドネシア) |

ご意見・ご感想を、内閣府(防災担当)まで、はがき、FAX、メールにてお寄せください。

〒100-8969 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館3階

内閣府(防災担当)広報「ぼうさい」宛

FAX: 03-3581-8933 E-MAIL: info@kouhou-bousai.jp

◆第24回防災ポスターコンクールの作品募集中!!◆

内閣府は、平成20年度における防災週間行事の一環として、関係機関等の協力を得て、広く一般から防災に関するポスターを公募することにより、防災意識の一層の高揚を図り、「日頃からの具体的な備え」を実践する国民運動を展開することを目的に、「第24回防災ポスターコンクール」作品の募集および表彰等を実施しています（主催：内閣府、防災推進協議会）。

昨年度は全国各地から合計で13,115点のご応募をいただきました。
今年度の作品募集期間は、9月1日（月）～11月10日（月）です。優秀作品は「防災週間ポスター」をはじめ、防災意識啓発のための各種のパンフレット等に幅広く活用するほか、防災関連行事等での展示も行います。

※防災推進協議会は昭和57年設立、日本赤十字社など70団体で構成

第24回 防災ポスター実施要領

◆応募区分（どなたでもご応募できます。）

- ①幼児・小学1～4年生の部 ②小学5～6年生の部
③中学生・高校生の部 ④一般の部

◆募集作品

(1) 内容

①テーマ：地震、津波、火山噴火、台風、豪雨、豪雪などの自然災害を対象とした「防災」に関するもの。（※火災による災害は除きます。）例えば、次のことについての重要性を訴える内容のもの。

- ・自然災害の恐ろしさの認識と正しい知識
 - ・家庭・地域・職場・学校等での防災に関する日頃からの心構えや備え
 - ・防災訓練や防災ボランティア、自主的な防災活動への積極的な参加など
- ②これらのテーマを連想させる標語を入れた個人の作品で未発表のもの。
- ③幼児・小学1～4年生の部は、標語のない絵画だけでも可とします。

(2) 用紙等

①応募用紙はA3判以上A2判以下の大きさの画用紙、ケント紙、印画紙で提出してください。

②画材・色数は自由とします。 ③パソコン等を使用した作品も可とします。

◆作品の送り先・お問い合わせ先

〒100-8969

東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎第5号館3階306号
「防災ポスターコンクール事務局」宛て 電話：03-5253-2111

◆表彰の種類

- ①防災担当大臣賞（各応募区分から1名ずつ）
②防災推進協議会会長賞（各応募区分から1名ずつ）
③佳作（10名程度） ④入選（200名程度）

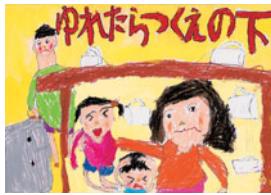
◆審査と結果発表

防災専門家等からなる審査委員会を設け選考します（平成21年1月頃）。入選以上の受賞者へは文書による通知をもって発表いたします（平成21年2月頃）。入選外の方への通知は省略させていただきます。表彰式は、「防災担当大臣賞」および「防災推進協議会会長賞」受賞者を対象に行います（平成21年2月頃）。上記以外の受賞者は、賞状等の送付をもって表彰に代えさせていただきます。

「第24回防災ポスターコンクール」の詳細は内閣府防災情報のホームページ <http://www.bousai.go.jp/> をご覧ください。

第23回防災ポスター入賞作品

防災担当大臣賞



幼児・小学1～4年生の部
愛知県 愛知教育大学附属名古屋小学校1年
阿南 就研（あなん ゆううと）さん



小学5・6年生の部
宮城県 湧谷町立湧谷第二小学校6年
本多 優平（ほんだ りょうへい）さん



中学生・高校生の部
徳島県 徳島県立徳島商業高等学校3年
近藤 仁美（こんどう ひとみ）さん



一般の部
静岡県浜松市
神谷 裕子（かみや ゆうこ）さん

防災推進協議会会長賞



幼児・小学1～4年生の部
神奈川県 小田原市立三の丸小学校4年
杉山 千佳（すぎやま ちか）さん



小学5・6年生の部
広島県 尾道市立長江小学校5年
川瀬 韶子（かわせ しおこ）さん



中学生・高校生の部
熊本県 山都町立蘇陽中学校2年
田上 由菜（たのうえ ゆうな）さん



一般の部
東京都練馬区
宇田川 杉子（うだがわ すぎこ）さん